

黒・紫の実がつく木



イボタノキ P. 53



ムラサキシキブ P. 54



クスノキ P. 63



ヤブニッケイ P. 64



サカキ P. 67



ヒサカキ P. 68



イヌツゲ P. 71



カクレミノ P. 75



ネズミモチ P. 77



トウネズミモチ P. 78

II
検
索

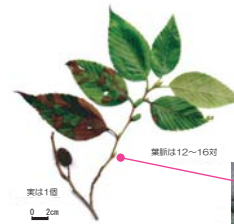
III. 解説

解説ページの見方

アイコン表示
アイコン解説 P.16

名称・分類

オオバヤシャブシ カバノキ科



樹皮

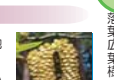
写真

名前を調べる際に、
参考となる葉の特徴
を示しています。

*のついた写真は清水孝之氏撮影

オオバヤシャブシの特徴

菌類と共生するため、養分の乏しい土地でも比較的成長が早いとされています。葉脈はほぼ平行で12対から16対で鋭い鋸歯があります。表面でへこんだ葉脈は裏側に浮き出ます。実はうすらの卵ぐらいの大きさで、ふつう1個ずつついています。実が1個から3個ずつつくヤシャブシと区別できます。また、オオバヤシャブシの実は上向きにつきます。



花



果

落葉広葉樹

六甲山での分布

主に谷筋や崩れやすい斜面に植えられて

生育環境や植生との関係

オオバヤシャブシ群落を代表する樹木です。他の群落ではほとんど見られません。

解説文

樹木の特徴や六甲山での分布範囲、生育環境などを掲載しています。

III
解
説

アイコン解説

樹高

高木

高木

低木

低木

葉の形



単葉



複葉



分裂葉



針葉

葉のつき方



対生



互生



束生

葉の縁



全縁



鋸歯縁

花の色



赤い花が咲く



紫の花が咲く



白い花が咲く



茶色・黄色・
緑の花が咲く

実の色



赤い実がつく



緑の実がつく



茶色の実がつく



黒・紫の実
がつく

その他

外来

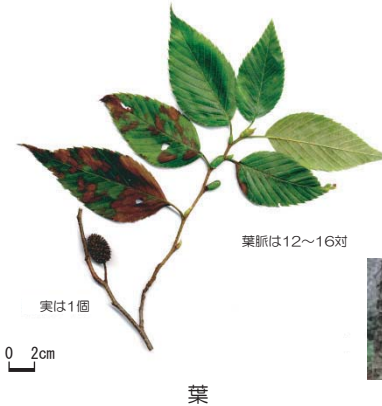
外国産の木

危険

触ると危険な木

オオバヤシャブシ

カバノキ科



葉



樹皮

オオバヤシャブシの特徴

菌類と共生するため、養分の乏しい土地でも比較的成長が早いとされています。葉脈はほぼ平行で12対から16対で鋭い鋸歯があります。表面でへこんだ葉脈は裏側に浮き出ます。実はうずらの卵ぐらいの大きさで、ふつう1個ずつついていきます。実が1個から3個ずつつくヤシャブシと区別できます。また、オオバヤシャブシの実は上向きにつきます。



花



実

六甲山での分布

主に谷筋や崩れやすい斜面に植えられています。

生育環境や植生との関係

オオバヤシャブシ群落を代表する樹木です。他の群落ではほとんど見られません。

アカシデ カバノキ科



アカシデの特徴

葉は卵形で細かい鋸歯があり、先が細く伸びます。樹皮は灰白色で大きくなると縦に裂け目が入ります。秋には美しく黄葉します。

よく似ているイヌシデとは葉の形で見わけることができます。アカシデは葉の先が尾のように細く伸びます。イヌシデは先があまり伸びず、葉の両面に毛がたくさん生えています。



花*



実

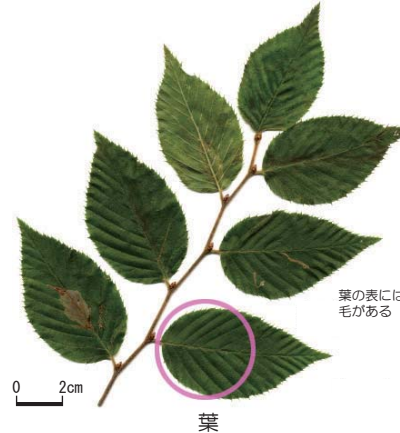
六甲山での分布

主に六甲山系の中腹以上の谷筋や急傾斜地を中心に分布しています。

生育環境や植生との関係

ブナ林、コナラ林、ウラシロガシ林などで見られます。

イヌシデ カバノキ科



イヌシデの特徴

イヌシデの名前は、アカシデやクマシデといったシデ類の中では劣る、シデではない(否)ということに由来しているといわれています。

葉の両面や葉柄には毛がたくさん生えています。葉の付け根で、かるく枝が折れ曲がります。

よく似たアカシデ、クマシデには葉に毛がないので見分けることができます。



花*



実

六甲山での分布

主に六甲山系の中腹以上に分布しています。

生育環境や植生との関係

アカマツ林、コナラ林などで見られます。

クリ ブナ科



0 2cm

葉

クリの特徴

栗のなる木です。実の大きさは、栽培品種に比べ小ぶりです。6月から7月にかけて、淡いクリーム色のしっぽのような形の花が咲きます。花の匂いは強くて特徴的です。葉は長い楕円形で、葉の縁の鋸歯は先が尖っています。アベマキ、クヌギの葉の形と似ていますが、クリにだけ、鋸歯にまで葉緑素があり、緑色をしています。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

二次林を中心によく見られます。尾根などの乾燥した場所にも生育しています。

クヌギ ブナ科



0 2cm

葉



樹皮

クヌギの特徴

里山の代表種です。クワガタムシ、カブトムシ、オオムラサキなどの昆虫が樹液を吸いにやってきます。まっすぐに伸びる幹、細かく割れる樹皮が特徴的です。葉は、細長い楕円形で、縁には柔らかいトゲ状の鋸歯が長く伸びています。クヌギ、アベマキ、クリの3種は葉の形がよく似ています。



花



実

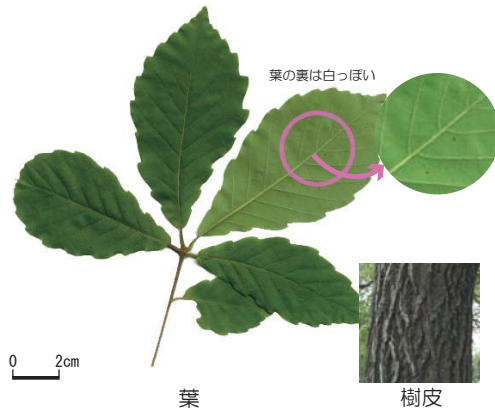
六甲山での分布

植栽に由来するため、局所的に群生しています。

生育環境や植生との関係

一般に、クヌギはコナラに比べてより湿潤な場所を好み、山麓や斜面の下部に見られます。

コナラ フナ科



コナラの特徴

葉は真ん中より先の方で、最も幅が広くなります。波を打つような鋸歯、平行に走る明瞭な葉脈、裏面の白っぽさが特徴的です。樹皮は、若く細いときはツルツルしていますが、生長にともない、縦に裂け目が入りゴツゴツしてきます。



花



実

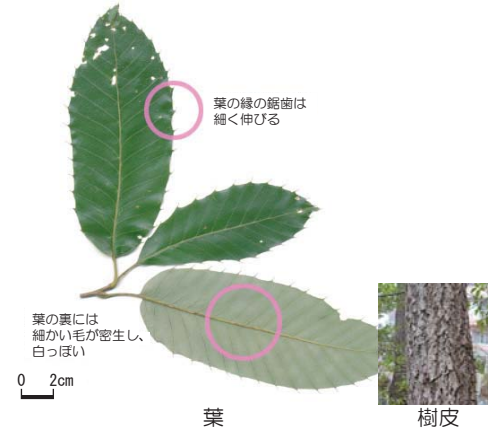
六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

山麓や斜面下部の湿潤な場所では良好に生育し、優占林をつくります。

アベマキ フナ科



アベマキの特徴

大きく丸いドングリを作り、9月から10月頃、枝からドングリが落ちます。深く割れ、ゴツゴツした樹皮になるのが大きな特徴です。これはコルク層が発達したものです。葉の縁の鋸歯は細く伸びます。

よく似たクヌギやクリの葉の裏には毛はありませんが、アベマキは葉の裏に短い毛が生え、白く見えるので容易に区別できます。



花*



実

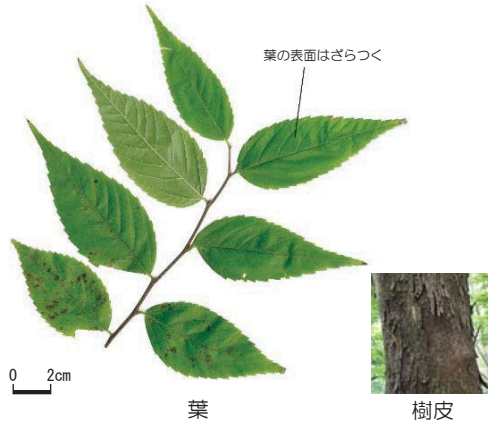
六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。特に海拔が400mよりも低い場所に多く生育しています。

生育環境や植生との関係

アベマキはコナラやクヌギよりもより乾燥に耐えます。そのため尾根や斜面上部などで見られます。

ムクノキ ニレ科



ムクノキの特徴

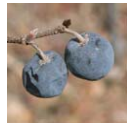
葉の表面がざらつくので、漆器の木地や細工物をみがくやすりとして利用されていました。

10月ごろに黒い実が熟します。樹形はまっすぐに伸び、樹皮には細い縦縞が見られます。葉の両面ともに短く硬い毛が生えており、触るとザラザラします。

ムクノキは樹皮に縦縞が入るため、よく似たエノキやケヤキと区別できます。



花*



実

六甲山での分布

表六甲の海拔の低い地域を中心に分布しています。

生育環境や植生との関係

土壌が崩れやすい谷部や山麓の斜面などを中心に生育しています。エノキやクマノミズキとともに谷沿いでよく見られ、エノキ林の指標種となります。

エノキ ニレ科



エノキの特徴

名前の由来は、器具の柄に使われるため「柄の木」、よく燃えるので「燃え木」がなまったなど、多説あります。

実は多くの鳥に好まれます。葉の鋸歯は先端の方にしかなく、葉の基部は左右非対称です。エノキの樹皮は、白っぽく横縞があってザラザラしているのが特徴です。



花*



実

六甲山での分布

六甲山系の谷部を中心に分布しています。

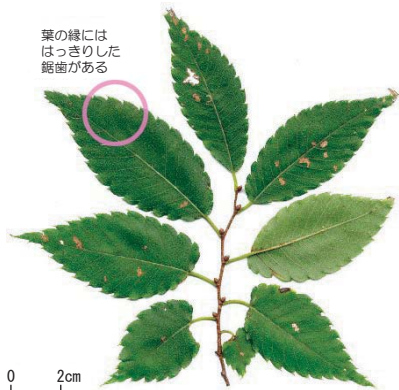
生育環境や植生との関係

エノキ林(エノキ-ムクノキ群集)の指標となる落葉高木です。ムクノキやクマノミズキなどと一緒に、谷沿いなどの不安定な立地に生育しています。

ケヤキ ニレ科



葉の縁には
はっきりした
鋸歯がある



葉

ケヤキの特徴

ケヤキという名は、「けやけき木（とくに際立つ木）」に由来するといわれています。ほうきを逆さに立てたような樹形が特徴です。

葉の縁は、独特の端正な鋸歯がみられ、丸みをおびています。

老木になると樹皮がウロコ状に剥がれ、デコボコします。エノキと似ていますがエノキの葉の鋸歯は、先端の方にしかないので区別できます。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に点在して分布しています。

生育環境や植生との関係

エノキームクノキ群集で見られます。

ミツバアケビ アケビ科



葉

ミツバアケビの特徴

名前のとおり小葉が5枚のアケビに対して3枚です。果実で知られるアケビ・ミツバアケビは、花もおすすめです。よく見ると花は、違った形をした2種類の花からなっています。数の少ないタイプが雌花、数の多いタイプのものが雄花です。10月頃、紫色の大きな果実がなります。この中に収まっている白くて甘い果肉は食べることができます。



花



実*

六甲山での分布

広く、照葉樹林帯～ブナ帯にかけての林縁の植生を指標する植物です。六甲山全域に分布しています。

生育環境や植生との関係

照葉樹林帯からブナ帯まで広い植生帯で普通に見られます。林縁部のような明るい環境に生育しています。

Ⅲ

解説

落葉広葉樹

Ⅲ

解説

落葉広葉樹

カマツカ バラ科



カマツカの特徴

カマツカは材が硬く丈夫なため、鎌や鋸の柄に使われたことが名前の由来です。また、別名はウシゴロシといい、材を牛の鼻輪に使うことに由来しています。

花は4月から6月にかけて咲きます。葉の縁に細かい鋸歯があるのが特徴的です。鋸歯は先端の方を向いています。葉の裏は薄い緑色で光沢があり、葉脈が網目状に細かく入っています。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

落葉広葉樹林によく見られます。

ウワミズザクラ バラ科



樹皮

ウワミズザクラの特徴

古来、この木の材の上面に溝を掘り、亀甲占いに使われていたそうで、「上溝桜（うわみぞざくら）」のなまったものが名前の由来といわれています。

4月下旬から5月上旬に小さな花が房状に集まって咲き、樹冠いっぱいに広がります。実は秋になると黄色から赤、そして黒く熟します。葉脈は表から見ると、くぼんで見えます。



花



実*

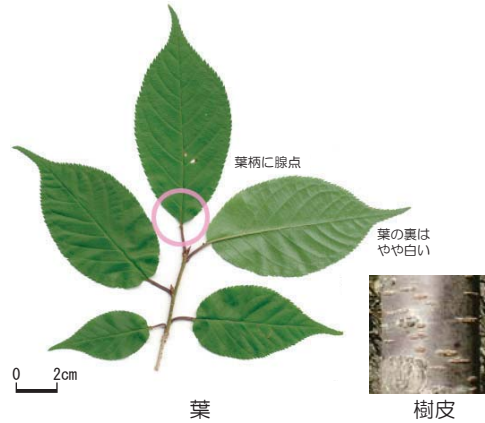
六甲山での分布

六甲山系の全域に点在して分布しています。

生育環境や植生との関係

エノキムクノキ群集で見られます。

ヤマザクラ バラ科



ヤマザクラの特徴

4月中旬頃に少しピンクがかった白い花をつけます。花をつけるのと同時に出新しい葉は、赤みを帯びています。葉の裏側はやや白く、葉の葉柄に腺点があります。また、葉柄には毛が生えていないことも特徴です。実は秋になると赤から次第に黒く熟します。



花



実

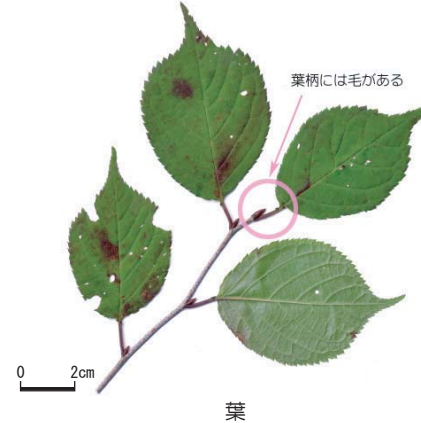
六甲山での分布

六甲山系の全域に点在して分布しています。

生育環境や植生との関係

主に二次林で見られます。

カスミザクラ バラ科



カスミザクラの特徴

春先の山で点々と花を咲かせる様子が、霞がかったように見えることから、「カスミザクラ（霞桜）」という名前がつけました。

葉は花と同時に出て黄緑色で、葉の裏は少し光沢があります。葉の葉柄には1対の腺点があります。また、葉柄に毛が生えています。

カスミザクラの花は普通ヤマザクラよりも1、2週間程度遅れて咲き始めます。



花



実*

六甲山での分布

六甲山系の全域に点在して分布しています。特に、急傾斜地や谷沿いなどにも見られます。

生育環境や植生との関係

主に落葉広葉樹林で見られます。

ノイバラ バラ科



0 2cm

葉 *

ノイバラの特徴

草原や明るい林縁に多く生育しています。5月から6月頃に白い花が房のように固まって咲きます。花は、たくさんのおしべが特徴です。緑色の幹は細く、枝にはトゲがあり、ほかの植物に寄りかかるように伸びていきます。葉の表面には光沢がなく、托葉はくし状に裂けています。



花



実

六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

開けた林縁など明るく乾燥した場所によく見られ、藪を作ります。

クサイチゴ バラ科



0 2cm

葉 *

クサイチゴの特徴

背丈が低く草のように地面を這うのでこの名前がついたと言われています。3月から5月に地下茎から新しい茎を出し、白い花を咲かせます。実は5月末から6月初旬にかけて赤く熟し、食べられます。葉は、下の方は5枚の小葉からなる複葉で、花が咲く上の葉は3枚の小葉となります。葉の縁には細かい鋸歯があります。茎には軟らかい毛が密生し、小さいトゲがまばらにあります。



花



実 *

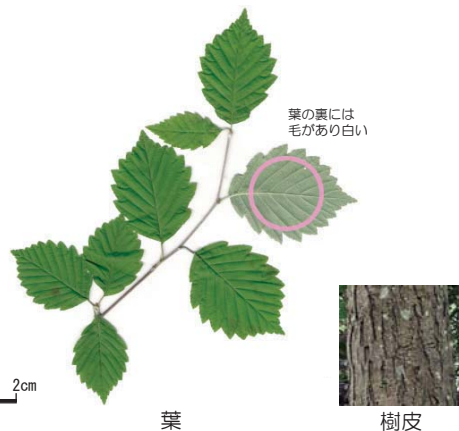
六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

陽のよく当たる林床や林縁、伐採跡地や草地でよく見られます。

ウラジロノキ バラ科



ウラジロノキの特徴

名前のお通り、葉の裏に絹のような綿毛が生えて白っぽい色をしているのが特徴です。

葉の縁は大きい鋸歯にさらに細かい鋸歯が入ります。5月頃にきれいな白い花をつけます。

よく似たアズキナシの葉の裏には毛がなくて緑色なので区別できます。



六甲山での分布

六甲山系の全域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

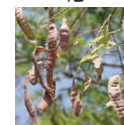
落葉広葉樹林やアカマツ林でよく見られます。

ニセアカシア マメ科



ニセアカシアの特徴

エンジュに似ていてトゲがあるため「ハリエンジュ」ともいわれます。明治初期に導入された北米原産の外来植物です。鳥の羽のように並んだ葉のつけ根には、一對のトゲがあります。初夏に白い花を咲かせ、強い香りがします。ニセアカシアの小葉の先は円いかややへこんでいます。種子(豆)が入っている鞘は、平たく波打っています。



六甲山での分布

表六甲の海拔450m以下に、集中的に分布しています。

生育環境や植生との関係

やせた土地でもよく生育します。林床にはネザサが密集して生育していることが多く、生物が住みにくい環境となっています。

Ⅲ

解説

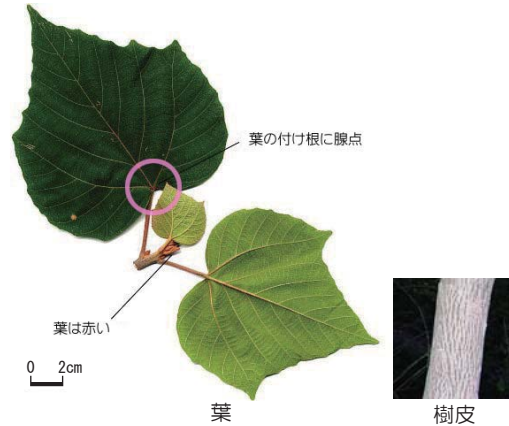
落葉広葉樹

Ⅲ

解説

落葉広葉樹

アカメガシワ トウダイグサ科



アカメガシワの特徴

新芽が赤いこと、カシワのように葉を食べ物を乗せる皿替わりにしたことから赤芽柏（あかめがしわ）と呼ばれます。葉のつけ根に一对の腺点があり、アリなどが訪れます。これは腺点から蜜が出ているためです。アカメガシワは、伐採やがけ崩れなどの後の明るくなった環境にいち早く生えます。こうした植物は、先駆性植物やパイオニア植物といひアカメガシワはその代表です。



花



実

六甲山での分布

六甲山では標高650m以下の地域に広く分布しています。

生育環境や植生との関係

伐採跡地などに成立するタラノキクサイチゴ群集の主要構成種です。また林道や登山道沿いなどの明るい場所を生育地としています。

イヌザンショウ ミカン科



イヌザンショウの特徴

サンショウとそっくりなので、思わずちぎって持って帰る人もいるのではないのでしょうか。サンショウに似てるけれど香りが悪いことから「イヌザンショウ（犬山椒）」と呼ばれます。植物の名前にはよくこの「イヌ」という言葉がついています。植物和名の場合「イヌ」とは、「否（いな）、違う」とか「役に立たない」などの意味あいがあるそうです。



花



実

六甲山での分布

六甲山全域の伐採跡地などに分布しています。

生育環境や植生との関係

伐採跡（タラノキクサイチゴ群集）などに多く、ほかのミカン科のカラスザンショウやフユザンショウ、サンショウと共に生えています。